

秋の岡山県高校野球大会（山陽新聞社後援）は倉敷工が22年ぶり11度目の優勝を飾り、10日に閉幕した。来春のセンバツの選考資料となる中国大会（22日閉幕

・山口）に県代表で出場する倉敷工、準優勝の学芸館、3位に入った創志学園を中心に熱戦を振り返る。

（田井香菜子）

倉敷工 攻守にバランス

22年ぶりに頂点に立ち、表彰される倉敷工ナイン。10日、倉敷マスカット



倉敷工は1試合平均の得点中トップの3割3分3点（6・25）、失点は1・75。10安打9打点の主砲と攻守のバランスが取れて、日向を筆頭に積極的なスイングが光る打線は上位

順位	学校名	得点	失点	安打	打点
1	倉敷工	11	2	5	1
2	学芸館	12	1	12	1
3	創志学園	11	5	11	5
4	岡山東商	11	2	6	4
5	岡山南	11	2	4	4
6	岡山北	11	2	12	4
7	岡山西	11	2	6	4
8	岡山東	11	2	1	11
9	岡山学芸館	11	2	3	10
10	岡山倉敷大	11	2	6	4
11	岡山美津	11	2	4	1
12	岡山玉野	11	2	3	2
13	岡山明作	11	2	6	0
14	岡山作玉	11	2	2	1
15	岡山創志学園	11	2	1	5
16	岡山東商	11	2	4	6
17	岡山創志学園	11	2	4	6

から下位まで長打もよく出た。真由球に切れのあるエース右腕高山は3戦（投球回25回）を投げ抜き防御率1・80と安定感があり、決勝で右腕近藤が学芸館打線を完封したのも明るい材料だ。

4年ぶりの頂点にあと一歩及ばなかった学芸館は制球のいい左の岡田景や準決勝を完封した右の大橋ら多彩な投手陣と、全4試合無失策の堅守を武器に戦った。出塁率5割超の1番森下、7安打4打点の4番勝妻ら好打者を擁するが、4戦で39残塁と拙攻が目立った。夏の岡山大会覇者・倉敷工との2回戦で決勝の満塁弾を放った後にバットの湿る3番宇地原の復讐が待たれる。

創志学園はチーム打率が3校で最も低い2割7分7厘ながら犠打で好機を広げ、しぶとく得点した。日替わりの打順で中軸を担い続けた金田は4割7分1厘をマーク。右横手岡村は全4試合に先発し防

秋の岡山県高校野球を振り返って

堅守の学芸館、創志しぶとさ

御率2・17（投球回29回）と踏ん張ったが、エース一人にかかる負担は大きかった。2番手以降の底上げが欠かせない。

岡山東商は準決勝、3位決定戦ともに2点差で落としたものの12年ぶりの4強入りと健闘。毎試合安打の光森、池田遼が攻撃の軸として機能し、右横手長谷川は粘り強かった。

初戦で屈した倉敷工は藤森旭が2本塁打を放つなど夏の甲子園メンパを中心とする強力打線は健在だったが、守りのミスが響いた。玉野商工は昨年に続いて8強入りし、存在感を発揮。天城と美作は秋の初白星を挙げた。

大会を通じて本塁打が4本にとどまり昨年から半減。直近5年では2018年の5本を下回り最少だった。パワー不足は県全体の課題と言えそうだ。県内で近年、私学勢が上位を占める中、9年ぶりに公立2校が4強に残ったのも目を引いた。

開幕が迫る中国大会は16チーム（開催地の山口4校、その他の4県各3校）が出場。昨年の岡山勢3校はいずれも4強に進めず、センバツ出場を逃した。今年こそ県代表の底力を発揮し、甲子園行きの切符をつかみ取ってほしい。

学芸館 劇的満塁弾



【学芸館-倉敷商】延長10回表学芸館2死満塁、宇地原（右）が左越え本塁打を放ち生還、10-6と勝ち越す-エイゴン

▽2回戦
学芸館0000230000
倉敷商01000040100
0410
0610

▽延長10回
▽本塁打 宇地原 藤森旭2
岸本
▽3塁打 田中 2塁打 勝
美 小嶋

【要】学芸館が激戦を制した。同点の延長10回、岡田諒の左前打を足場に敵失、串吉敬遠などで2死満塁とし、宇地原が左越え本塁打を放った。七回から登板した1年生右腕の大田原が4回1失点でしのいだのも大きい。

倉敷商は1-6の六回に藤森旭代打本塁の本塁打などで4点を返し反撃。八回は藤森旭のソロで追い付く粘りを見せたが、及ばなかった。
(田井善子)

延長10回「完璧」一発 V候補対決制す

低い強道の打球は左翼席に突き刺さった。優勝候補同士の3時間に迫る激戦は延長10回、宇地原が値千金のグラブドスラムを放った学芸館に軍配が上がった。

2死満塁の打席で、右の3番打者が意識したのは「コンバクト」に振り、後ろにつなぐこと。初球の直球を左で捉えた一発は「完璧だった」と打った瞬間に本塁打を確信した。12歳以下日本代表にも選ばれた神楽出身の天才肌「やっつけくれば」と思っていたから全く驚かなく、と佐藤監督の信頼も厚く、この日は4安打も打席の大暴れだ。勝勢越え劇への流れを生んだのは七回から登板した大田原だ。驚異的な

しぶとさを誇る倉敷商打線との対決にも「思ったより緊張しなかった」。満塁満点の1年生右腕は同点ソロこそ許したが、九回2死一、二塁のピンチは相手打者を内角直球で捕飛に仕留めた。

2カ月間、優勝候補として臨んだ岡山大会は3回戦でゴールド負け。涙に暮れる3年生の姿は頭から離れない。「引き抜いたために戦う野球を貫く」。宇地原もこの攻撃をけん引した主将の勝変には懐心のかけらもな「1学年の仲を賑え、兄弟のよう」（佐藤監督）に過ぎない先発たちの分まで、この秋はクワンで戦い続ける。
(田井善子)

夏の王者 倉敷商初戦敗退

最大5点のビハインドを追い付くも最後は一発に泣き、2016年以来の初戦敗退。2季連続の甲子園が絶望的になった倉敷商の堀山監督は「これだけ点を取られては勝てない」と不安定な守りを嘆いた。

10イニング中、先頭の

出塁を6度許し、計9与四死球。十回に痛恨の決勝弾を浴びた3番手引地は「投手陣が守備のリズムを崩してしまっただ」。五、六、十回の3失策はいずれも失点に絡んだ。

それでも持ち前の攻撃力は発揮。八回に藤森旭

の2打席連続本塁打で試合を振り出しに戻すなど優勝候補の意地は見せた。だが勝利には届かず、センバツへの道は早々に断られた。旧チームから主砲を張る藤森旭は「2本塁打を打っても勝たない」と意味がない。来夏は何としてもっぺんを取

る」と悔しさを押し殺した。
(橋本直樹)

学芸館	打点	安打
①	0	1
②	2	4
③	5	5
④	2	4
⑤	3	3
⑥	2	4
⑦	2	4
⑧	2	4
⑨	3	3
⑩	2	4
H	1	1
計	35	129

倉敷商	打点	安打
①	0	0
②	1	1
③	5	5
④	3	3
⑤	2	2
⑥	5	4
⑦	1	1
⑧	2	1
⑨	1	1
⑩	1	1
H	5	4
計	37	96

学	4	9	5	1	0	9	1
坂	8	2	1	1	3	4	2
倉							

秋の岡山県高校野球組み合わせ決定 中国大会へ3枠争う

25日に開幕する秋の岡山県高校野球大会（山陽新聞社後援）の組み合わせ抽選会が22日、倉敷市のマスカットスタジアムであり、地区予選を勝ち抜いた20校の対戦相手が決まった。10月10日までの6日間、マスク



抽選会でくじを引く津山東の前原悠斗主将。倉敷市

は選手10人ながら投手を中心に守備からリズムをつくり地区予選を突破。前原悠斗主将は「自分たちの野球ができるよう、しっかり準備して初戦に臨む。新たな歴史をつくる」と話した。開会式は25日にマスカットであり、倉敷工の福島貴太主将が選手宣誓する。1、2回戦は一般の観戦は不可。準々決勝以降は新型コロナウイルスの感染状況を考慮し判断する。（和田知弥）

V候補、筆頭は倉敷商

今夏の甲子園メンバーが多く残る倉敷商が覇権争いをリードする。総合力の高い学芸館や創志学園はこれに張り合う力がある。夏の岡山大会準優勝の山陽や地方のある倉敷工、関西、興譲館、理大付が追う構図だ。倉敷商と学芸館は初戦



【注】マはマスカット、倉は倉敷市営、エはエイコン

総合力高い学芸館、創志

りが出れば一気に勢いづく。右投手岡村、左の谷ら投手陣も整ってきた。初戦で当たる玉島商はリードオフマン竹田がけん引する打線につなぐ意識が浸透し、一筋縄ではいかないだろう。山陽と倉敷工がぶつかる開幕カードは見込める打撃戦になりそうだ。山陽は夏に引き続き打線が充実し、旧チームで活躍した田内をはじめ山崎、伊藤水、徳永ら中軸はパワフル。一方の倉敷工も地区予選3試合で計47得点。福島、日向、若林らスイングスピードの速い打者がすらりと並ぶ。地区予選を無失点で突破した関西は旧チームからスタメンの原田、岩井を中心に機動力を強みにする。初戦の相手は興譲

原を柱に攻守の均整が取れている。昨秋の中国大会を経験した左腕岡田、右腕大橋はともに球威十分。ハイレベルな一戦を制したチームは頂点に大きく近づきそう。創志学園は木村政、横井ら上位打線に力があり、1年生竹本らに当た